

平成29年度 大社高等学校 学校評価

《教育目標》	重点目標	担当	評価項目			生徒評価			保護者評価			教職員評価			評価	自己評価 ※太字=反省点など	改善策	学校関係者評価委員会での意見	
			※「評価」欄の基準は肯定的評価の%：A=80%以上 B=65～79% C=50～64% D=50%未満	評価平均	%	評価	評価平均	%	評価	評価平均	%	評価	評価平均	%					評価
郷土に思いをいたし、こころ豊かで、たくましく生き抜く実践力のある人材を育成する	①生徒理解に基づく人権教育	生徒指導部	規律ある生活習慣が確立できるように、全職員で指導できたか。	3.1	84	A	3.1	85	A	2.6	59	C	B	先生方の指導により服装については、概ね良好といえる。言動については、 大半の生徒は良いがそうでない生徒も見受けられた。 ・取り組み内容の「見える化」は、全教職員への共通理解を図る上で有効であった。また、人権推進委員会での協議を経て全体計画を立案することができた。 ・「 人権・同和教育部 だよりは改善の余地がある。 ・人権推進委員会を通して校内のいじめ・からかい等の諸問題に対して共通意識をもって対応することができた。 人をいじめることに対する生徒の意識の変化については課題が残った。	早めの対応(個人への指導や全体指導)を心掛け、学年集会や全校集会等での組織的な対応・指導を行う。 ・たよりの1回ごとの内容は減らして、発行回数を増やす方向で考える。また、ふれあい委員の活動内を活性化する。 ・アンケートの見直しや活用方法)の検討を行う	・生徒同士の人間関係やいじりに対して先生方がアンテナ高く把握し、即対応している様子が見られる。 ・いじめは担任で抱えないで組織で対応しないといけない。学校全体でいろいろな教員が関わっていくことが大切である。			
		人権・同和教育部	人権推進委員会や人権・同和教育部だよりの発行等を通して、人権意識を大切に教育を推進できたか。	3.1	86	A	3.0	82	A	3.1	93	A					A	・人権推進委員会を通して校内のいじめ・からかい等の諸問題に対して共通意識をもって対応することができた。 人をいじめることに対する生徒の意識の変化については課題が残った。	・いじめ・からかいの未然防止のための方策、コミュニケーション力の向上を目指し、年間を通して人権推進委員会により適切な取り組みを考える。
		人権・同和教育部	校外と連携しながら、教職員研修や人権HR活動等、人権について学ぶ機会を充実させることができたか。	3.1	83	A	3.0	82	A	3.0	94	A							
③適切なことばによる表現力の育成	1学年 年会	自分の言動に責任を持ち、互いを認め合う集団となるよう支援したり、規則やマナーを守る態度を育て、安心・安全な学習環境を整える事ができたか。	3.1	83	A	3.0	82	A	3.0	94	A	B	学校生活を通して新たな人間関係を構築し、共に成長する集団作りへの支援は概ねできたが、 相手への配慮を欠いた言動も見られた。	相手の人権に係る不適切な言動が発生した場合は、詳細を把握するとともにできるだけ早く学年集会を設定して学年全体の問題として指導する。					
2学年 年会	基本的な生活習慣を確立させるとともに、集団の中で適切な言葉遣いを身につけさせることができたか。	3.1	83	A	3.0	82	A	2.8	74	B	A				・積極的に部活動に取り組む姿勢が人間形成につながり、社会性を育てている。大半の生徒が学習活動との両立を果たしている。しかし、 部活動内の人間関係によるいじめ等のトラブルがあった。 ・ボランティア[44名、部活動等での参加除く]や共同募金等も積極的に行われた。 ・コミュニケーション能力の育成については、おおむね良好であるが、 一部生徒の中で他者を思いやることのできない発言や行為が繰り返されている状況がある。 ・各部顧問による熱心な指導により、良い成果が挙げられている。 ・ 部活動によるオーバーワークや不注意による怪我が多かった。	・ボランティア活動(奉仕の心を育てること)は非常に大切。積極的に取り組んでほしい。 部内での人間関係を注意深く見るとともに、個人への声掛けと早めの対応をする。 望ましいコミュニケーション能力育成のため、全教職員による横のつながりを強化し、きめ細やかな指導をしていきたい。 ・全国で戦える集団になるため生活面での指導にも力を入れる ・けが予防や体調管理のため主体的に考え行動できる能力を身に着けさせる。			
魅力ある学校づくりの推進	①体育科の充実と部活動の推進	生徒指導部	部活動やボランティア活動に積極的に取り組めるような指導ができたか。	3.3	89	A	3.3	88	A	3.0		84	A	A			・積極的に部活動に取り組む姿勢が人間形成につながり、社会性を育てている。大半の生徒が学習活動との両立を果たしている。しかし、 部活動内の人間関係によるいじめ等のトラブルがあった。 ・ボランティア[44名、部活動等での参加除く]や共同募金等も積極的に行われた。 ・コミュニケーション能力の育成については、おおむね良好であるが、 一部生徒の中で他者を思いやることのできない発言や行為が繰り返されている状況がある。 ・各部顧問による熱心な指導により、良い成果が挙げられている。 ・ 部活動によるオーバーワークや不注意による怪我が多かった。	・ボランティア活動(奉仕の心を育てること)は非常に大切。積極的に取り組んでほしい。 部内での人間関係を注意深く見るとともに、個人への声掛けと早めの対応をする。 望ましいコミュニケーション能力育成のため、全教職員による横のつながりを強化し、きめ細やかな指導をしていきたい。 ・全国で戦える集団になるため生活面での指導にも力を入れる ・けが予防や体調管理のため主体的に考え行動できる能力を身に着けさせる。	
②魅力の共有とPR活動の充実	総務部	PTA総会・評議員会・教育研修会、ホームページ・学校便り『社高の風』『PTA通信』などを通じて家庭や地域へ積極的な情報発信をし、開かれた学校づくりが推進できたか。	3.1	85	A	3.2	88	A	3.3	100	A	A	・ホームページや緊急メールに関する保護者の意見や要望があった		ホームページと「学校案内(来ないか大社)」を全面的にリニューアルすることが決定しました。				
③ふるさと学習の推進による地域の中心人材の育成	図書部	生徒の知的好奇心を刺激すると共に、様々な情報を提供して課題解決を支援し、生徒の学習活動の場として有効に活用されているか。	2.8	65	B	2.9	73	B	3.0	80	A					A			1年生で図書館オリエンテーリング(総学)、2年生でマインドマップを用いて、自己や進路について考える、3年生は様々な形式の文章や新聞記事を読み、社会問題についてグループ学習を行った。 各クラス年間1回と単発なものに終わった。
①主体的・自律的に学習する生徒の育成	教務部	研究授業・公開授業・授業評価等の実施により、授業の改善とそための指導法の共有化が図れたか。							2.9	76	B			B			公開授業週間を教員研修として位置づけ、授業研究を行った。各教科会において授業改善のための協議の時間を設けてもらい、そのまとめを作成・報告できた点はよかった。	公開授業週間でなくとも、教職員が常時お互いの授業を参観できるような教務から提案する。	
②対話的・協働的な授業への取組促進	1学年 年会	生徒が学習習慣を形成し、主体的に学ぶ姿勢を育むような授業の充実や、課題の吟味、提示を行うことができたか	2.9	78	B	2.9	76	B	3.0	98	B	B	・各教科で、生徒主体の授業への取り組みが実践された。 ・ 家庭学習習慣の形成は今後も継続的な課題である。		・教育課程実践モデル事業をふまえ、各教科でさらに授業の充実や改善に努める。 ・学習時間調査の結果を分析し、問題点を明らかにしてその原因を探り解決していく。 ・実施した結果を生徒・担任に還元できるようにする。 ・1・2年の担任、若手の教員などが検討会に参加する ・進路ノートの活用、総合学習の見直し				
③部活動、学習活動、総合学習等を踏まえた系統的キャリア教育の実践	進路指導部	進路希望調査やスタディサポート、進路検討会を通して、生徒の進路志望や思いを的確に把握し、担任と協力してアドバイスや相談ができる体制を整えていたか。	3.1	86	A	3.1	88	A	2.7	66	B					B			・データの活用という点で 不十分な点があった。 ・ 進路検討会に3年担任以外の教員の参加が少なく情報共有ができなかった。 ・ 個々の進路学習は行えたが、体系的な進路学習という点で課題が残った。
④平日補習や土曜補習の内容充実	進路指導部	各教科や担任と連携しながら補習や模試、面接・小論文指導を効果的に行えたか。							2.7	67	B			B			・土曜補習は各教科に実施方法を工夫してもらい一定の成果を上げることができた。 ・ 1年生にも小論文模試を実施したが、体系的な指導という点で課題が残った。	・生徒アンケートを実施し改善を行う。 ・総合学習・進路学習と関連付けるなどして、小論文・志望理由などの早期指導を行う。	
①保護者・地域の思いを受け止めた学校づくりと積極的な情報発信	総務部	PTA総会・評議員会・教育研修会、ホームページ・学校便り『社高の風』『PTA通信』などを通じ、家庭や地域へ積極的な情報発信をし、開かれた学校づくりが推進できたか。	3.1	83	A	3.2	88	A	3.3	100	A	A	大社ロータリークラブとの共催で実施し、生徒も参加したPTA教育研修会(竹内昌彦氏講演会)の評価は高かったが、 保護者の出席者が少なかったこと(32名)が、最大の心残りでした。		・一方的に聴くだけの講演会ではなく、保護者参加型の教育研修会としたい。				
②地域や小中学校との連携促進	総務部	オープンスクールの充実を図るため、中学校への積極的な呼びかけや実施方法・内容の改善・工夫ができたか。							3.1	94	A					A			中学との連携を密にし、スムーズな運営を行うことができた。 ・ 学校説明会の資料の更新が不十分。 ・大社高校セミナーは各教科の協力で無事に実施することができた。
③安全で安心して過ごせる学校運営	総務部	危機管理の立場で、実践に即した防災避難訓練等を実施し、緊急時の迅速な連絡体制を確立することができたか。							3.2	92	A			A			雨天で2回とも屋外への避難ができず、 消火訓練もできなかった。 防災教育は、日本赤十字社の防災プログラムにより3年間進めてきたので、概ねできた。 ・ 接触事故が多く外部から苦情電話もあり通学マナーは良くなかった。 ・いじめ事象の対応は比較的スムーズにおこなわれた。 いじめについての共通理解と未然防止にやや不十分なところがあった。 ・昨年度よりゴミの減量化が進んだ。 ・生徒環境委員会の活動を充実させて行うことができた。 ・カウンセラーの来校日を35時間から70時間に増やし有効に活用できた。 ・要支援の新入生についての情報を全教員で共有した。	通学路の調査(安全通学協力会のアンケート調査)だけでなく、避難所等のアンケートと実地調査を来年度は行いたい。 ・一年を通した定期的な交通指導(あいさつ運動を含む) ・教育指導課子ども安全支援室から講師を招き職員研修会を行い、いじめについての共通理解と未然防止について学ぶ。 ゴミの持ち帰りについてはまだ不十分な点が見られるので、引き続き呼びかけていきたい。 特別支援教育の教職員研修の時間を増やす。	
安全で安心して過ごせる寮運営	舎務部	寮生のライフスキルが向上するように指導できたか。							2.9	84	A	A	授業時の礼や整理整頓を目標に掲げていたが、徹底させることができなかった。なぜ礼や整理整頓が大事なのかも伝えていくことが必要であった。 アンケートをもとに問題点を洗い出し、三者会議で共通理解を図り、改善に努めた。		朝終礼を利用して環境を整えることの大切さをさらに伝えていく。 良いことも、問題点もすぐに舎務部に連絡が入る体制を確立したい。ここがすべての根幹である。				